

各地域を結ぶ交通網の整備は まだまだこれからでは

～ 地域連携軸を担う路線は 2 路線を除く全ての路線で、
既に整備に取り組んでいる ～



改良中の緒方朝地線

2月15日に中九州横断道路の大野インターから朝地インター間が開通し、豊後大野市として、あらゆる可能性の拡大と、これを機に若い世代の定住促進に結びつけてほしいと期待します。

豊後大野市市制10周年に当たり、今一度、市道・県道の路線構想や修繕管理等の対応が必要と考えるが。

質

答

市長

地域連携軸を担う路線とは、中九州横断道路、国道326号、国道442号、国道502号の国道と、三重新殿線バイパス、緒方朝地線、三重野津原線、緒方大野線の県道4路線と市道牛首線です。これらの整備は、国道326号と442号を除く全ての路線は既に整備に取り組んでいます。

市道の修繕管理は、市職員全員に対し、路面の痛みや支障木による事故を防ぐための道路監視及び報告を依頼しました。

質

ジオパーク認定後2年が過ぎ、再度の認定が妥当なのか調査があるが大丈夫なのか。今年、大型観光キャンペーン※DC(デスティネーションキャンペーン)が企画されているが、受け入れ態勢は十分か。

地域の特性を生かしたジオパーク 等の推進・観光交流人口の拡大は

～ ぶんど大野里の旅公社と各団体との
連携を持った体制づくりを ～

答

市長

認定後は4年ごとに再審査が行われます。再審査に向けて、認定時の指摘事項を今後2年間で対応していきます。

DCの受け入れ態勢は、ぶんど大野里の旅公社の設立により、これまでと比較してスピード感を持って具体的な取り組みや関係団体等と連携する仕組みが整いつつあると感じています。

DCに向けては時間的余裕がありませんが、豊後大野市のPR、地域経済に資するプログラム、仕組みづくりに努めます。

DC(デスティネーションキャンペーン)＝旅客6社と指定された自治体、地元の観光事業者等が協働で実施する大型観光キャンペーン。

地域振興協議会の進捗状況は

～ 新たな地域振興協議会立ち上げ
対象地域への説明を推進 ～

質

豊後大野市内、206自治区の約4割が小規模集落という現状で、各地域の祭事やイベント活動等が行えなくなってきた。平成26年度までに4つの地域振興協議会が活動しているが、活動の支援や次に立ち上げようとしている他地域へ参考になる活動事例など協議され、しっかりサポートの準備ができているのか。

また、現在活動している協議会の活動チェック、予算的な検証はしっかりできているのか。



振興協議会の活動風景(緒方町)

また、今後新たに振興協議会として対象となる地域への説明会では、4つの振興協議会の活動内容等を紹介しながら、今後推進していきます。



市民クラブ 衛 藤 竜 哉